



地域子育てネットワークだより

令和3年8月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課

E-MAIL : danjokatei@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2798)



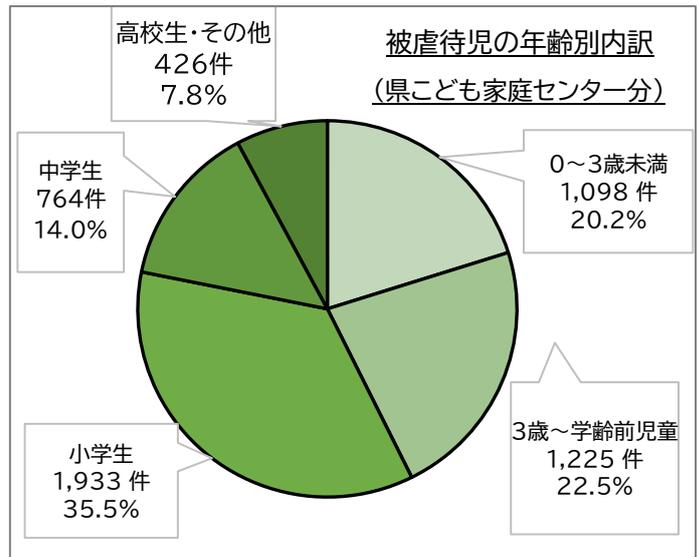
http://web.pref.hyogo.lg.jp/ak7/network-4
pref.hyogo.lg.jp/ak7
http://web.pref.hyogo.lg.jp/ak7/network-4

児童虐待相談件数が最多 虐待の発生予防・早期発見を

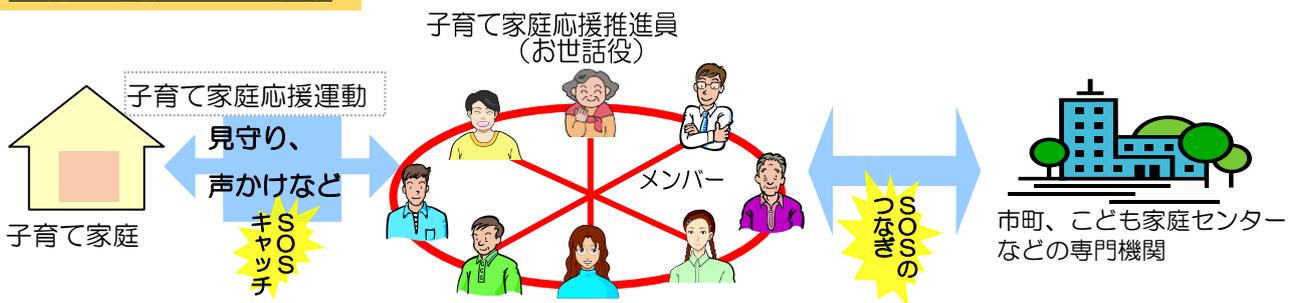
令和2年度に県こども家庭センターが受け付けた児童虐待相談は5,446件で、前年度より66件増加し、統計を取り始めた平成2年度以降で最多となりました。なお、神戸市、明石市を含めると8,816件でした。

被虐待児の年齢は小学生以下の子どもが全体の78.2%を占めています。相談経路は警察等からの相談がもっとも多く、次いで近隣・知人からとなっています。虐待相談種別の特徴は心理的虐待の相談が増加し63.4%を占めています。

「子育て応援ネット」が取り組む子育て家庭への見守り、声かけ、子育て相談などを行う子育て家庭応援運動、子育て家庭の親子が発するSOSキャッチ活動など地域ぐるみの子育て応援が虐待の発生予防・早期発見につながります。



子育て応援ネット事業



あなたのおき「家族写真」募集中

家族の大切さを見つめ直すきっかけとして「家族の日」をテーマに写真コンクールを開催します。あなたのカメラやスマホにある、家族のあたたかさ・絆を感じられる写真をぜひご応募ください。

「家族」は、同居家族だけでなく、家族と同じようなつながりを感じる「人」、「動物」、「物」も含まれます。

家族の日 写真コンクール

応募期限 9/30 詳しくはHPでご覧いただけます



子育て応援ネットの活動紹介

声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する
「子育て応援ネット」の各地の取り組みを紹介します。

三田市多世代交流館子育てグループネットワーク会議では子育てグループの活動を通じて、地域の子育て家庭が孤立することなく子育てできるように、親同士が交流し、子どもたちの育ちを見守っています。

コロナ禍の中ですが、感染予防に配慮しつつそれぞれの会員が地域でのあいさつや声かけに加え、一緒に活動することで仲間づくりをしています。

グループリーダー連絡会を開き情報交換をして活動時の悩みを共有し、解決の糸口としています。また、親子遊びやリトミックなど活動の参考となる講師の派遣、グループ間の交流を深めるための合同クリスマス会や「みんなげんきジム」のイベントも開催しています。

これからも子育てのグループのネットワークを大切に活動していきたいと思えます。

三田市多世代交流館 子育てグループネットワーク会議 代表 塩見由美子

まちの子育てひろばの紹介

西宮市 まちの子育てひろば ぴよっこ

「ぴよっこ」は、平成22年からまちの子育てひろばに登録されている、自然豊かな生瀬地区のママと未就園児を中心に活動している子育てサークルです。開催日は毎月第1・3月曜日の午前中で、室内では季節の行事に合わせて工作をしたり、持ち寄ったおもちゃで遊ばせながらお喋りしたり、ハロウィンやクリスマスには仮装や衣装を着て、その可愛い姿に癒されながら楽しんでいます。6月にはひろばアドバイザーさんにお越し頂き、リトミックを開催しました。屋外では、気候の良い日には公園で遊んだり、水遊びやプールをしたりしました。



コロナ禍で思うようにいかず、うつうつとした生活になりがちですが、出来る限りの感染症対策をしながら、気分転換・子育ての悩みや情報交換の場、子供達の成長を見守る場として、今後も開催していきたいと思えます。

ぴよっこ 代表 七海由香里

こどもの健康コラム
連載 第153回

コロナ下での熱中症の気づきと対処

県立こども病院名誉院長 中村 肇



倦怠感がある・頭がふらつく・発熱や頭痛など、熱中症の症状の多くが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の症状と共通しています。

熱中症の初期には、「頭痛」や「めまい」、「だるさ」、「吐き気」など、ありふれた症状がみられます。熱中症による脱水で特に影響を受けやすいのが、脳・消化器・筋肉です。いずれの臓器も、機能の維持には、多くの水分が必要なのです。

体調不良の原因が、高温や高湿度にあると疑えば、涼しい場所に移動し、十分な水分摂取を行うなど、正しい熱中症対策を行ってください。これらの対策を行っても症状が改善しない場合には、原因が熱中症か、COVID-19かの判別は難しく、専門機関を受診するようにしてください。

熱中症を招く脱水は、実は免疫力の低下にもつながります。とくに with コロナの今、ウイルス感染リスクを高める危険性もあり、熱中症対策が感染予防対策につながることも覚えておきましょう。

